飼料の切れ目になにか良い作物はないか

問 私の住む所は鹿児島のまだ南の方ですが、夏飼料と冬飼料の切れ目に青刈作物がなく困っております。夏飼料としてはスーダングラス、青刈トウモロコシ、カウピー、冬飼料では、えん麦、イタリアンライグラス、そして十一月にサツマ芋ヅルがあるだけです。このほかに良い飼料作物をお知らせ下さい。また多年草で一年中刈り取れるものはないでしょうか。

（鹿児島県川辺郡大浦町　福元　嵩）

答 御質問の九州地方における、初冬のツナギ飼料期間は十一月～十二月と思われます。その期間に収穫し給与できる飼料作物としては、根菜類、葉菜類、青刈類があります。

㈠ 根菜類

カブを八月下旬～九月上旬に播種すれば十一月から十二月にかけて収穫できます。播種時に旱害、虫害を受けやすいので十分注意し、早目に行なうほど収量は多くなります。品種には下総カブと紫丸カブ及び紫長カブがあり、下総カブは青首の晩生種ですが、他の二品種は七〇～八〇日で収穫できる早生種です。

冬至近くになるとカブは太らなくなるので収穫し、根部を莚等で覆って凍結を防ぎ、葉は生で食わせ余る場合にはサイロに詰めるか、または降霜に合わせて凍結ののち乾燥すると青々とした乾菜ができます。

カブと同様に大根も八月下旬～九月上旬に播種すれば初冬の根菜飼料として利用できます。またルタバカを九月中旬頃播種または移植（六〇㌢×三〇㌢）しますと、そのまま露地で越冬し、一、二月頃に多汁質飼料として利用出来ます。

㈡ 葉菜類

レープ（青刈ナタネ）は普通早春に刈取り利用していますが、八月中～下旬に播種すれば年内に刈取ることができます。その収量は秋まき早春刈りの場合や、春まき初夏刈りの場合よりも一般は少ないものですが、堆厩肥三、〇〇〇、硫安二〇、過石二五、塩加一〇（一〇㌃当りキロ）を施し、発芽当初に地蚤など害虫の防除を行ない、栽植密度は五〇×一〇㌢一本立にし、中耕除草の際窒素質肥料を少量追肥すればかなりの収量を期待できます。土壌は乾燥地より多少湿りけのある方が好成績を得られます。

レープ品種には、いろいろありますが、早生種としてミチノクナタネ、晩生種としてC・O（シー・オー）その他があります。

また降霜前であれば甘藷蔓の利用ができ、豊富にある場合は実取玉蜀黍の茎葉と共にサイロに詰めることも良いでしょう（水分の調節を図るために）。芋の給与も勿論結構ですが、偏食にならないように、貯蔵ムロから少しずつ取り出して与えるべきです。

生育中のレープ

㈢ 青刈類

燕麦、イタリアンライグラスの利用も一般には早春に行なわれていますが、これらも九月上旬頃に播種すれば十一～十二月に一回刈取りが可能です。むしろ、早播きの場合には、年内に伸長した茎葉を刈り取ってやることが翌春の萠芽を良くし、刈り取りは余り低くならないように地際六～七㌢を残し、窒素質及び加里肥料を追肥しておきます。ただし、一～二月酷寒期の刈取りは冬枯を招きますので禁物です。

えん麦品種の中で青刈収量の多いものには、早生種の岡山黒、中生種の太豊、晩生種の豊葉等があげられましょう。

最後に、多年草で一年中切れることのない飼料作物があったらということですが、作物には必ず夏型と冬型（あるいはそれに準ずる型）に分かれており、高温の季節にも低温の季節にも生育を続けられる作物はありません。誰しもそのような理想的な多年性飼料作物があったらと希うところですが、如何にせん現在弊社では取り扱っておりません。従って各季節毎に多収を望める作物を組合わせて栽培し、利用して行く以外にないのではないでしょうか。

（上野幌育種場　兼子）

今回、あらたに会員に加えていただき、〝牧草と園芸〟七月号を楽しく拝見いたしました。表紙の〝ぼくらの仕事〟はありふれた、また見なれた姿ながら、心に沁み入るものを感じます。記事では〝やれば出来る〟〝秋まき蔬菜で注意してほしいこと〟などは教えられるところ大でした。解り切ったことながら、なかなか実行できないのが、凡人の常ですが、心すべきと思いました。また欲を申しますと、養鶏、養豚関係の記事も毎月一項目位載せていただきたいと思います。（北海道亀田郡七飯町　八代嘉隆）

係 八月号を配合飼料特集号としました。今後出来るだけ飼養関係の記事を一編位掲載する計画ですので御期待下さい。